

サトリの  
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、  
仏教に興味を持つ人が増えています。  
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗法性寺住職  
鈴木良敬さん

第62回

私が住職を務める法性寺は1492年の開山。500年以上前から現在と同じ場所にあります。柳嶋の妙見さまとして知られ、妙見さまは芸事の神様であることから、江戸時代には芸者さんがこそってお参りされていたそう。一般の人は芸者さんを見る機会がないので、「あそこへ行く」と芸者が見られる」と参拝者が後を絶たなかったようです。

また当寺は、江戸期に浮世絵師として活躍した葛飾北斎ゆかりの寺としても知られています。なかなか思いどおりの絵を描くことが

できず、師匠から破門されそうになった北斎は、「立派な絵師になれますように」と、妙見さまへ2日間参拝。その満願の日の帰り道に、雷に打たれて田んぼに転げ落ちます。それ以来、北斎は才能が開花して、めきめきと頭角をあらわしたという逸話が残されているのです。

### 北斎ゆかりの寺ならではの「名画ギャラリー」を考察

そんな由緒あるお寺ですが、一方で、現代は、お葬式、お寺、お坊さんの必要ないといわれる「これ」の時代。私はこの状況に「これではないけない。今、自分に何ができるか」と考えました。そして、皆さんとにかくお寺の中に入っていたことからはじめようと思いつきました。

寺の中で自由に楽しく過ごしていただくために、まずは絵を飾りました。葛飾北斎のレプリカや歌川広重の錦絵、さらに棟方志功の肉筆なども加え、寺務所の2階に「名画ギャラリー」として展示しています。名画鑑賞のあとは、1階の客殿でゆつくりお茶を飲み、くつろいでいただけます。

法事などがないときは朗読会や音楽会、書道展などにお堂を開放。



左上／東京の新名所「東京スカイツリー」のほど近くにある法性寺。右上／境内には葛飾北斎の碑も。左下／妙見堂では開運祈願ができる。右下／「名画ギャラリー」(10～15時開館)。

### お寺への期待を胸に 信仰を次世代へ伝えたい

夏休みは近隣の子どもたちを集めて寺子屋を開催しています。今年で8回目。日帰りで2日間、参加者は毎年100人以上です。

お経を唱えたり写仏など、お寺ならではの体験が半分。あとは流しそめんやかき氷を食べたり、ビンゴゲームやヨーヨー釣りなど遊びが半分。子どもたちが楽しく過ごしてくれば、と思っただけですが、親御さんからは「厳しくして」とリクエストされます。「子どもがお寺に行く」と利口になるので「いいことを教えてもらえらんじやないか」と期待されているんですね(笑)。お寺に対して、まだまだ期待していただいていることが一番の喜び。こうしてお寺を開放することで、親近感を持ち、いつか自然な形で信仰につながればいい、と考えています。

## 葛飾北斎などの名画を お寺でゆつくり鑑賞して

すぎきりょうけい 1962年生まれ、東京都出身。早稲田大学法学部を卒業後、立正大学仏教学部に編入。1985年に立正大学卒業後は、日蓮宗大本山池上本門寺や法華経寺などに修行する。2006年より法性寺の第39代住職に。名画ギャラリーのほか、朗読会や音楽会なども積極的に開催。法性寺／東京都墨田区業平5-7-7 <http://www.yanagishima-myouken.net/>